

リフォームに、新築に、
住まいづくりのほっとな話題をお届け！

うちの はなし

2022.11月号260



< 発行人 >

株式会社 大成建託

☎0280-87-6177

✉info@fp-taisei.co.jp

〒306-0405 茨城県猿島郡境町塚崎2542-1



外壁材選びのポイント

一家のデザインを決めるもの

- ・住宅のエンベロップ
- ・湿式工法と乾式工法
- ・外壁材選びのポイント

NEWS TOTOトイレ取替え キャンペーン実施中！

トイレでおなじみTOTOの新ネオレスト発売記念として、トイレ取替えキャンペーンを実施中です。

期間中、2022年8月発売の新ネオレストにトイレリフォームをした方の中から、抽選でAmazonギフト券をプレゼント。

トイレリフォームをお考えの方は、ぜひご相談ください。

★ご相談は当社HPよりどうぞ★

当社HPはこちら>>

<https://fp-taisei.co.jp>



<<TOTO HPはこちら。



笑う門には
福来たる

健康だいすき！ 壮年Diary ～とある、ひとこま～

11月23日は「勤労感謝の日」です。“勤労をたつとび、生産を祝い、国民たがいに感謝しあう”という趣旨のもと定められており、1948年に法律で制定されました。

なんとなく、「働く人に感謝をする日」というイメージが強い「勤労感謝の日」ですが、実際は『収穫物への感謝』が由来となっています。勤労感謝の日が制定される前から、11月23日は祭日で、この日は「新嘗祭(にいなめさいしんじょうさい)」という行事が行われていました。

新嘗祭は今でも天皇が国家や国民の繁栄を祈るために行う祭祀、『宮中祭祀(きゆうちゆうさいし)』として、11月23日に皇居内の神嘉殿という場所で行われています。

勤労感謝の日

社長コラム

その内容は、天皇が新穀を天神地祇（日本の神様たち）に勧めて、その収穫に感謝し、自らもそれを食す、というのだそうです。

収穫物に感謝をする大切な儀式の歴史は古く、始まりは飛鳥時代の皇極天皇の時代だそうです。

昔から日本では農作物の収穫を祝う大切な行事が行われており、宮中以外でも11月23日に、伊勢神宮や出雲大社をはじめ、日本全国多くの神社で新嘗祭が催されています。その祭儀の一部を拝観できる場所もあるようですので、ご興味のある方は、古より

続いてきた収穫に感謝する祭儀を拝観されてみてはいかがでしょうか？



白鷺かカラスか

白鷺城ともいわれる姫路城は、世界遺産にも登録されている日本を代表する建築物の一つです。お城といえば白いイメージを持つ人も多いのですが、白鷺城といわれるように姫路城の白さはとても印象深いものです。

白鷺とは反対に、日本にはカラス城と呼ばれる黒い城もあります。松本城や熊本城です。姫路城と比べると大きさや形状も違いますが、それ以上に外壁の印象が強くなります。

白と黒という外壁の色の差は、白鷺城の外壁が漆喰で作られているのに対し、カラス城の外壁は木材の下見板で作られています。材質が違えば当然のことながら色も違い、質感も違います。さらには施工方法やメンテナンスの仕方まで違ってきます。外壁を選ぶ際には、建物のイメージだけではなく幅広い項目を検討しておく必要があります。

家の外観をイメージづけているのは、設計はもちろんですが、外壁の印象が大きく影響しています。新しい建材や施工方法も開発され、住宅の性能が向上すると同時に、外壁の選択肢もたくさん増えてきました。デザインやメンテナンスなどにも大きく関わる外壁の種類と選び方を知っておきましょう。



～家のデザインを決めるもの～

外壁材選びのポイント

住宅のエンベロップ=外皮

住宅などの建築物を、スケルトン、マシン、エンベロップという3つの要素に分ける考え方があります。日本語では構造体、住宅設備、仕上材もしくは外皮とも呼びましようか。

スケルトンでもある構造体が住宅の強度を決め、マシンの住宅設備が暮らしの快適さを支えてくれます。エンベロップが仕上材であれば内装と外装ですが、外皮というと断熱性や耐火性・防水性・遮音性・耐久性などの性能も含まれます。外皮は、住宅の

住宅の価値を決めるほど大切な要素です。

性能や機能に加えて、デザインも価値を決める大きな要素の一つです。様々な外皮の性能については、住まい手は細やかな材質へのこだわりはなくても、性能が達成できていれば安心できるものです。でも、屋根材や外壁材はそうはいきません。デザインとしての好き嫌いもあれば、手間のかかり方もあります。材の選び方もよく理解し慎重にならざるを得ません。特に毎日のように見て触れることのある外壁材はなおさらです。

外皮を単純な外壁材と考えれば、求められる性能も限られます。法律的な規制もある耐火性や雨風などの激しい環境にさらされる事での耐久性が、最も求められている性能です。

耐火性に関しては、多くの材料が耐火認定を取得した建材として流通していますので、選択の幅は残されています。

耐久性については、雨や風よりも太陽光の紫外線による劣化が大きく、耐候性がポイントとなります。そして将来のメンテナンスとの関係もあります。

建材のポイントは、材質そのものよりもジョイント部にあります。多くの建材はつなぎ合わせてできています。そのジョイント部の処理方法でデザインやメンテナンスに影響が及びます。

もし周辺で既存の建物を見ると、ジョイント部に注意して見ると、素人でも外壁材を見分けることができるようになるでしょう。



湿式工法と乾式工法

外壁材の種類を、工を進める上でのジョイントの量で区分すると、以下の通りです。

塗り壁系

左官壁や吹付などで仕上げるもの。ジョイントは殆どない。

サイディング系

長尺もしくは広い形状の面材を張るもの。ジョイントは少ない。

タイル系

タイルなどの細かい材を張るもの。ジョイント部分がたくさんできる。

また、構造躯体と外壁材との接合方法に、大きく分けると湿式工法と乾式工法の2種類があります。湿式工法は水分を含んだ建材を塗って作り、乾式工法ではビスや専用釘などで打ちつけて固定します。この区分では、上記の塗り壁系とタイル系が湿式工法でサイディング系が乾式工法となります。

基礎的な工法が理解できると、外壁材はデザインの要素と割切って選択できる様になります。

塗り壁系

塗り壁の外壁は、昔から使われている外壁です。中でもモルタル壁は、セメントと砂を混ぜたモルタルを塗って仕上げる湿式工法の壁です。モルタルは下塗り、中塗り、上塗りと3回重ね塗ります。この左官工事に手間や時間がかかり、それなりのコストになります。

モルタルが乾燥して外壁ができれば一体となり、ジョイント部は目立ちません。そればかりか凹凸や曲線・曲面などの自由な形にも対応できます。また最後の仕上げの塗り壁材に自由に色をつけることや、漆喰を仕上げ塗りにすることも可能です。色と同様に外壁の表面のテクスチャーを楽しむこともできます。左官のコテの技術を活かしたり、櫛引きや刷毛引きといった模様



外壁材 選びのポイント

～家のデザインを決めるもの～

など表情がつけられます。

モルタルは耐火性・耐候性にとっても優れた建材です。ただ経年の変化で細かいひび割れが入ります。放置すると内部まで水が浸み込んで、壁そのものの劣化が進みかねません。また、仕上げ塗りの退色なども起きます。塗替えなどのメンテナンスが必要です。

サイディング系

大きな面材を乾式工法で貼るサイディングは、現在の住宅の外壁仕上げの主流です。ジョイント部分も少なく工期が短縮でき、コスト面でも比較的優位といえます。

このサイディング系の外壁材には、材料の違いによっておおよそ次のような種類があります。

窯業系サイディング

金属系サイディング

木質系

ALC系

窯業系サイディングは、セメントなどに繊維質を混ぜ込み、高温で加圧して成形したものです。密度が高く硬質で、外壁材として適した材です。プレスをする時に型に入れ、模様がつけられます。多彩なバリエーションで揃えられており、さらには、光触媒や親水性の塗装をしてある製品もあります。施工性も高く、コストダウンができるので、主流になるのもわかります。

経年による変化も軽微で優良な建材ですが、反りができるとジョイント部が目立つようになります。JIS規格では厚さ14mm以上という基準がありますが、なるべく厚いものを選ぶことがポイントです。しかし、厚い材ほど価格も高くなります。

金属系サイディングは、アルミニウム合金やガルバリウム鋼板などを面材とするサイディングです。軽量で建物への負担も少なく、耐久性に優れ、紫外線に強く、窯業系と同じ様に親水性の機能を持たせたものもあります。また断熱材を裏打ちしたものや、テクスチャーの加工をしたものなど種類やバリエーションも豊富です。



広範囲に捉えると、ガルバリウムの鋼板を張るのも、金属系サイディングの一種といえます。長さのある鋼板を使うと、例えば1-2階の間にジョイント部が見えないデザインができます。

木質系サイディングは、木材を外壁材として張るもので、昔からありました。素材の木材もスギやヒノキ、ヒバなど種類も多く、縦張りや横張りでも印象が大きく違います。ただ木材は、防火上の規制でできない場合もあります。

表面には劣化を抑える為の塗料を塗ることが一般的です。数年に一度、塗り替える必要があります。また天然素材の木材は、年数が経つことで味わいが出て美しく感じることもあります。

ALCはコンクリート系のサイディングです。蒸気養生した軽量気泡コンクリート(ALC)板を外壁として張ります。

ALCには表面に気泡があって

吸湿性があるので、表面はしっかりと防水塗装をしなければなりません。火や劣化に強い材料です。

これらのサイディングは、木材や金属の一部を除くと、ジョイント部の目地処理が必要です。これらの目地は主にシーリングで埋められますが、外壁材よりもシーリングの寿命の方が短くメンテナンスを考慮しておかなければなりません。また、こうした目地の劣化で外観が損なわれることから、塗り壁系に戻っている傾向もあります。

タイル系

何千年も前の土器が土中から発見されるように、タイルの耐久性は抜群です。同様に耐候性も耐水性も強く、さらに種類も豊富で、完成した建物のイメージは重厚で高級感もあります。外壁材の材料としてのタイルは、理想の建材といえます。

しかしタイルは比較的細かいので、沢山の目地がジョイントとしてできます。ジョイントが多いほど、施工の手間がかかり熟練の技術を要する為、手間のコストがかかります。

例えばタイルの貼り方の代表に、馬目地と芋目地があり、手間も違います。単純に見える芋目地の方が、上下左右に目地をまっすぐに通さなければならぬので手間がかかるのです。



こうしたタイルも進化し、タイルそのものも薄く軽くなって建物への負担が少なくなりました。同時に接着で固定させることができるようになって、乾式工法とかわりません。それに伴いコストも下がりました。

また、目地も芋目地の写真のようにタイル面と揃えるデザインがでてきています。凹んだ目地よりも、汚れにくいといわれています。

すまい文化の栞

ようやくコロナパンデミックから解放されて、海外からの観光客に渡航を開放しました。コロナ前には3000万人を超えていた数が、コロナで100分の1にまで少なくなりました。インバウンド消費は、今の日本には大事なカンフル剤にもなります。

その上、円安もあって、世界から見て最も魅力ある観光国に日本がなっていることを見逃す手ありません。

そんな外国人の目から日本を見ると、様々な違いがありますが、よく取り上げられています。

山々の緑や、彩り豊かに紅葉する大自然など、実は日本が自然の宝庫であることを、住んでいる日本人の方が逆に知らないでいます。その他、街の中にもたくさん異なる文化が感じられるようです。

中でも面白いのは、日本の寺院を訪れると、色気のない建物が建っていることです。そこに異国を旅した感覚を味わう外国人観光客が多いと聞きます。そして日光の東照宮に行くと安心します。外国人の目では、どうして祀りあげるべき場所が彩ら

色気のない建物

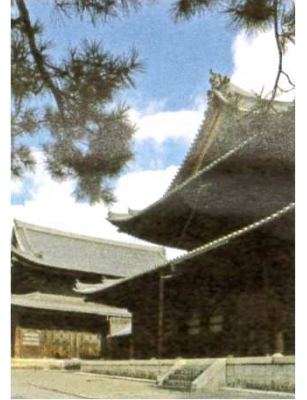
れていないのかということが不思議に映っているようです。白茶けて、黒ずんで、汚くなった木肌を、日本人がそのままにしていることに、異国感を感じているのです。

逆に日本人が他国の寺院に行くと、その派手派手しさに驚きます。隣の韓国の寺院でも同様で、陰陽五行の五色で飾られていて、古びてくれば新しく塗り直されています。

この感覚は私たち日本人にしてみれば、とても簡単な一言で済みます。「わび」「さび」です。

時を経て侘びれたものや、色落ちして寂れたものに趣を感じます。日本の大自然の彩りが豊かであるからこそ、生まれてきた美意識なのかもしれません。

清潔で便利で工業化が進んだ国の良さも捨てがたいものですが、古びたものをも「美」と感じる心も誇りたいものです。



Health & Sustainability

長生きするための教育と教養

地球環境の時代に、健康で長生きするために必要なことは、人やモノや住まい等すべてのものに共通しているのかもしれませんが。その大切なキーワードがサステナビリティという言葉です。日本語では「持続可能性」と訳されることが多いのですが、まだしっかりと概念が浸透しているようには思えません。持続することなのか、持続させることなのかによって少し違っ

たものになります。

例えば、メンテナンスフリーと言われるモノ。経年による劣化や損傷が少ないので、メンテナンスや手入れが要らないモノをこのように呼び、持続的な使用ができ環境にも良いと表現されていることが良くあります。しかし組み合わせれば接合部ができ、故障や汚れはそこから起こります。

逆に、毎日のように手入れをすることは、メンテナンスフリーとは正反対のもののですが、多くは



代々と長く使われているものもあります。

それを健康で考えれば、もっと明確になります。完全な健康など本来はありえないもので、定期的な健康診断や毎日の習慣によって健康は守られています。これを面白く話してくれたのは、『頭の体操』の著者として有名な多湖輝さんです。

健康で老いないためには、「教育と教養」が必要であるとラジオで語りました。よくよく聞けば、「今日行く所」と「今日やる用」があることだと思います。仕事につけばどちらも欠かすことがなかったものが、退職をして自分の時間が増えると、

この2つも少なくなります。結局は毎日の積み重ねが、老いを少なくし長く生きるためのポイントであるということです。

つまり「持続性」とは「継続性」ということ。メンテナンスフリーの様に持続するものを選ぶのではなく、継続させることの方が長生き長持ちのコツであり、“モノ”よりも“しくみ”なのです。

メンテナンスをなくすのではなく、メンテナンスを習慣にすることが本当の健康につながります。

～編集後記～

11月に入りました。だんだんと慌ただしくなる季節です。皆様いかがお過ごしですか。

先日「死ぬほど嫌いな家事を教えて」とシャープが投稿した事が話題になりました。「私はガス台と換気扇の掃除だな～」と言うと、友人は「私は窓掃除」とのこと。結局、たまにしかやらないから大変なんだよねとの結論に。

年末に向け計画的に掃除をしていこうと決めた今日この頃です。



すまび

すまいのレシピ

カラーコーディネート

ミディアム色の床にはやわらかなベージュとグレー系のカラーでコーディネート。ちょっとさみしいかなという場合は、ブラックのスタンドライトで引き締めます。



たいしんしんだん 耐震 診断

30年以内に巨大地震が起こる確率は70%以上。
巨大地震は、いつ起きてもおかしくはありません。

※このような方は、耐震診断をご検討ください。

- 昭和56年以前に建てられた住宅に住んでいる方
- リフォームを考えている方
- リフォームや改修は10年以上したことがない方
- 過去に増改築された住宅に住んでいる方



有資格者による
耐震診断承ります

まず「家の弱点」を知ることが重要です。当社は耐震診断のプロ「耐震診断士」による現地調査・診断を実施しています。

～住まいは命を守るもの～

「地震に強い家」は、わが家は「健康一番家」の最大の特徴です。

わが家は「健康一番家」
株式会社大成建託
〒306-0405
茨城県猿島郡境町塚崎2542-1

☎0280-87-6177
健康いちばんや



株式会社 大成建託

☎ 0280-87-6177



「おうちはなし」バックナンバーは弊社ホームページでご覧いただけます。

健康いちばんや

ホームページ <https://www.fp-taisei.co.jp>



旬を食べよう！

ピリ辛ユッケジャン鍋

<作り方>

- ① しいたけは5mm厚さに切る。玉ねぎは縦1cm幅に、ニラは5cm長さに切る。にんにくは横薄切りにする。卵は溶く。
- ② 豆もやしは酒を加えた熱湯で30秒茹でてザルにあげる。
- ③ 鍋にAを合わせて強火にかけ、湧いてきたら牛肩肉、牛バラ肉、しいたけ、玉ねぎ、にんにく、キムチを加えて一煮する。溶き卵を菜箸に伝わらせながら回し入れ、ニラ、豆もやしの順に加える。韓国産唐辛子を振る。
- ④ 野菜がしんなりしたら完成です。



～ 材料 (2～3人分) ～

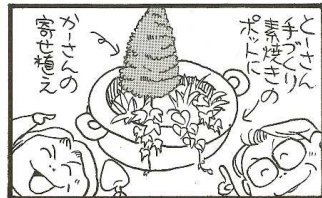
- ・牛肩肉、牛バラ肉 (しゃぶしゃぶ用)・・・200g
 - ・しいたけ・・・・・・・・・・2個
 - ・玉ねぎ・・・・・・・・・・1/4個(60g)
 - ・ニラ・・・・・・・・・・1/3束(30g)
 - ・にんにく・・・・・・・・・・1片
 - ・卵・・・・・・・・・・1個
 - ・キムチ・・・・・・・・・・60g
 - ・豆もやし・・・・・・・・・・1袋(250g)
- A {
- ・水600cc
 - ・薄口しょうゆ、酒、ごま油・・・各大さじ2
 - ・みりん、韓国産唐辛子(粉末)・・・各おおさじ1
 - ・コチュジャン・・・・・・・・・・大さじ1/2
 - ・ダシダ(韓国のだし)・・・・・・・・小さじ2
- ・酒、韓国産唐辛子(粉末)・・・・・・・・各適宜

～POINT～

*韓国産唐辛子を使うことでマイルドな辛さに。日本の一味唐辛子を使うと激辛になるので注意です。

*豆もやしの下茹では30秒程度であげることで、シャキシャキ食感が残ります。

おがすい! のびちゃん ガーデニング編



家づくり 庭づくり

縁側の植物たち

日本の建物には、縁側という場所がありました。縁側は室と庭の間にあり、生活をする上で、とても大切な空間です。

近年の建物ではこの縁側にあたる空間は少なくなり、暮らしの庭とのつながりの部分がなくなりつつあります。子どもの頃より、縁側で遊んだり体感してきた方々は、一度縁側でしたことや、見てきたことを思い出してみると、おのずと「暮らしの庭」が見えてきます。縁側は、季節の風を感じ、香りを楽しみ、空を眺めて時を感じる癒やしの空間です。

太陽の日差しを浴びて昼寝をしたり、秋にはお月見もこの縁側でしました。ものごとを考える場所でもあります。庭先や畑で採れたさまざまな野菜などを干したりもしました。この縁側は、常に植物たちと一緒に空間です。

軒下に位置する縁側は、室内から裸足のままで行くことができます。欧米のスタイルでのデッキでは、靴を履くことと違いがありません。豪雪地帯では、冬の間は折りたたむことができるように工夫された様式もあります。いずれにしても日本の風土にあった縁側の存在は、暮らしの植物たちとの付き合いの場所でもあります。



暮らしに役立つ植物たちを植栽するためには、植物たちと付き合う空間も環境としてともに考える必要があるでしょう。たまたま場所が空いているから植栽するといった単純な発想ではなく、「間」が大切であることを先人は教えてくれています。時代は変われど、日本の暮らしの文化は、風土の中から生まれます。新しいこれからの暮らしの庭を、植物たちと一緒に創造していきましょう。

防虫効果のある植物たち

ヨーロッパでは古くより、ポマンダーと呼ばれる植物を使った忌避剤が暮らしに欠かせないものとしてあります。日本では、クスノキから作られた樟脳や防虫菊を使った蚊取り線香などがあります。自然の植物の力を活用したこのような安全な素材は、今後さらに見直されてくるでしょう。害虫や病気が増えつつある現在、ガーデニングで育てることのできるものは、さらに普及していくことが期待できます。



住まいづくりで「空気」について考えたことはありますか？

キレイな空気で暮らす家

～ 毎日ふれる空気だから、いちばんこだわりたい。～

集塵効率98.5%! PM2.5や花粉、ハウスダストから家族を守る、ビルトイン空気清浄器付きのお家です。

●詳しくはー



株式会社大成建託

〒306-0405

茨城県猿島郡境町塚崎2542-1

☎0280-87-6177

健康いちばんや

